

平成28年度第3回一宮市子ども読書活動推進懇話会 会議録要約

1 開催日時 平成28年11月18日（金）午前10時～正午

2 開催場所 中央図書館 7階 講座室

3 出席者 懇話会委員：9名

事務局：8名

4 議 題

（1）一宮市子ども読書活動推進計画（第3次）について

（2）その他

5 開 会 （事務局が開会を宣言）

「子ども読書のまち宣言」唱和

図書館長挨拶

懇話会会長挨拶

6 会議録（要旨）

議事進行は、会長が務めた。

（会長） 議題（1）について説明をお願いします。

（事務局） 一宮市子ども読書活動推進計画（第3次）について説明。

（会長） 今日の委員の意見の取り扱いについて

（事務局） パブリックコメントの意見と委員の意見をまとめて、来年の1月に策定部会を開き検討する。2月には最終案を最終確認という形になる。今日の意見は最終案に反映する。

（会長） 委員からの意見はパブリックコメントと同じような扱いで検討いただけるということでご意見をいただきたい。

（委員） 最終案の家庭の役割で「読書を強制するのではなく……」という言葉は行為を否定するのではなく何々ししょう的な文章表現をしておかないと上から目線でいけない。「子どもが自然に本に興味を持ち」と表現するだけでいい。親の行為を否定して、こうしなさいという表現は市が公表する計画にはそぐわない。

（会長） パブリックコメントの前に直せるようならご一考ください。

（委員） 目標値の表の児童クラブの数について

（事務局） 単独で児童クラブ、児童館の中にない児童クラブだけの数を記載している。その表現の仕方だけ確認する。

（委員） 図書館司書に子どもたちが気軽に相談できる体制をとるために何か工夫をしてほしい。「あなたの子どもさん、こんな本がいいですよ。」と児童書フロアに読書案内する人をおいて巡回してほしい。読書案内を運営委託業者や図書館職員の司書の業務の一つにしたらどうか。もっと明確に、例えば中央図書館あるいは子文に行ったら年齢に応じた本の相談とか、どんな本を読んだらいいかをもっと声を出して、読み方指導みたいなものがあったもいいと思う。

（事務局） 各館では各年齢向けのおすすめ本のリストとか書架の展示をしている。中央館の5階の児童書エリアでは委託業者の司書が首から「おたずねください」という名札を下げて迷っている方にご案内できる体制をとっている。

（委員） 一宮市の図書館としてどんな子どもを育てるかのイメージ図を作ったらどうか。地域・学校・図書館で実施すること、そして一宮の子どもはこうやって育てようと思っていますということをイメージ化したものがある、ないで、全然違う。来館者に図書館へ

行けばわが子にあった相談を受けてもらえると思われることが必要。

(会長) 職員がカウンターの中で子どもからの問い合わせを待つのではなく、積極的に子どもたちの近くへ行くことが図書館に求められるものだ。

(委員) 子どもを連れてくる大人にも対するレファレンスが必要。

(委員) 小中学校で実際に子どもの前に立たれる、学校の PTA の方々に図書館の方からアドバイスする機会を設けると余計にいい本が子どもに届く。

(副会長) 図書館のこの場所に行ったら相談にのってくださる方がいる場所が明確に分かることが必要。

(委員) 図書館の相談員の名称をホテルのコンシェルジュとかソムリエとか世間一般で知られている分かりやすい言葉にしたら相談しやすい。

(会長) 司書だから、図書館員だからカウンターで待機するのではなくて地域や学校へ出ていき読みきかせをすることも役割の中に一つ入ってくる。受身のものと攻めていくものを両方やらないと図書館の機能は果たせない

(委員) 学校図書館司書のエプロンは一つの目印として分かり易い。

(会長) 図書館各館でも実施している。施策体系の表に子ども司書講座・ビブリオバトル・よむりん読書通帳の配布・調べ学習講座・電子書籍の導入が新規の項目にあがっているが目標値を増やす考えがあるかどうか。

(事務局) 「平成 28 年度子ども読書活動推進関連事業における取り組み状況」に 2 次の段階で、調べ学習講座・子ども司書講座については 26 年度及び 27 年度から実施しているのでその実績が記載されている。新たに 3 次の計画ができましたら、29 年度から新たにビブリオバトル・よむりん読書通帳の配布の毎年の進捗状況報告を掲載する予定。

(会長) そこに目標値は。

(事務局) 目標値まではなかなか設定できない。

(委員) 前に聞いたが一宮市民がどれだけ本を読んだかについて具体的な目標値がない中で、ここにあるのが家庭の役割 100%、地域の役割、何%みたいな目標値になっていることの考えを。

(委員) 一宮市民がどれだけ本を読むようになってきたのかが最大の目標であり図書館として分かりやすい。一宮市民と他市の市民を分けることはできると聞いた。配布することの結果は分かりやすいんだけど、その究極の目標は一宮市民がどれだけ読書に親しんだかという尺度は本であるのか、来館数にするのかで終わっている。そういう意図はないか。

(事務局) 住所要件ですべて拾えば、登録者で市内、市外を拾うことは可能だ。年報でも、若干市内、市外の割合の人数というのは拾っている。その市内、市外の登録者の率で按分し貸出者の市内、市外を算出することは無謀な数字の出し方なので今回あえてそのような指標は設定していない。

(委員) 一宮市民がどんな本を読んでいるかの読書傾向の分析はしていないか。

(事務局) どのような種類の本が貸し出されているかというのは、統計上も出ていて分析は可能。しかし、図書館は市内、市外の方が、誰が何を借りたかという履歴を持たず返却されればすぐ誰が何を借りたかというデータは消すのが基本。

(会長) 児童 1 人当たりの蔵書冊数だとか、児童 1 人当たりの年間児童貸出冊数を一宮市の子どもだけに当てはめるとというのが非常に難しくなってくる。事務局でその数字が

出せるかどうかということですね。その数字の取り方を間違えるととんでもない数値になるのでしっかり精査してこの目標値なり実績値なりを取り扱い、説明もできるようにすると今後もスムーズにいくのではないかと。引き続き検討を。

(委員) 学校に貸出す冊数を増やせば、当然児童への本の読書の傾向というのは増えるが、子どもにとって中央図書館ができて通いやすくなりそれぞれの地域の活動で、図書館としては児童の貸出数は増えているのか減っているのか。学校がたくさん借りてくれば、図書館へ行かなくてもいいという発想ですか。

(会長) 第3次計画を進めていく上で一番大事なのは、図書館と学校との連携になってくると思う。それらを少しでも進めていただけると、具体的に数字的なものにはなるのですが連携をとればさらに伸びてくるしその活動推進計画そのものも充実するのでは。

(委員) 学校側としては図書館主任者会で学校司書と話ができるときに連携していきたい。

(会長) 家庭や地域の役割というのが一応明言されてはいるが、図書館だけでやろうと思っても無理だ。家庭や地域というのは、学校の力を加えることによって達成できる。そのあたりを連携していただきたい。

(委員) 将来的にはこの会議に学校教育課が入らないと本当に図書館と学校との連携は成り立たなくなってくると思う。

(会長) 本当に図書館サイドだけでことを運んでしまうと、実際それがすべて学校側の負担になる。子どもの読書活動推進に協力いただける先生方の会合の開催があれば受け入れてほしい。先生の負担を考えないと、進むものも進まない。現場の意見を聞くことによって、進む方向が変わってくると思うのでその姿勢を図書館側と学校側が両方で持ってほしい。

(委員) もっと地域に子どもたちが自分たちで足を運べるような児童館や公民館でも図書館システムで本を借りられるようになると、子どもたちが公共の図書館に触れる場がもっと広くなりいいと思う。

(事務局) 地域の公共施設で図書館の本が借りられればというご提言をいただきましたが、図書館に今現在ある本を貸出すということになると地域の公共施設で貸出によるいろんなシステムの構築が必要になってくる。ネットで予約していただければ、近くの図書館でしか受け取れませんけれども、そのようなことを今後も活用していきたい。学校からの図書館見学を増やし学校とは一番密に連携をとっていきたい。

(会長) ご意見も出尽くしたようで議題1についてはこれでとさせていただきます。議題2その他について何かございますか。

(事務局) 今後の予定について説明

(会長) 2月の懇話会にはパブコメのご意見が出されたものと今日委員さんからいただいた意見に対する回答をお示しいただけることでよろしく願いいたします。以上で本日の会議を終了します。